

## 草で育てた稀少和牛「北大短角牛」の販売を開始

～持続可能な循環型生産システムでSDGsへの貢献に期待～

### 【概要】

北海道大学では、北方生物圏フィールド科学センター静内研究牧場で飼養している日本短角種を「北大短角牛」と命名し、北大ブランドとして発売を開始しました。

日高山脈の麓に位置する静内研究牧場では、和牛の4品種の一つである日本短角種を飼養しています。自然豊かな山間地で、春から秋にかけては放牧のみで飼養し、放牧が出来ない冬期間は場内で収穫した乾牧草と飼料用トウモロコシのサイレージ（茎や葉まですべて細切し乳酸発酵させた貯蔵粗飼料）を中心にウシたちに与えています。肥育時に給与する飼料に輸入穀物は使わず、道内産の穀物由来飼料にこだわり、その給与量も日本で肉用牛に与えられている通常の量の1/4程度にまで減らすことで、環境循環型による飼養を実践しています。そのため肉質は穀物を主体に与えて霜降りにした肉とは違い、赤身の締まった肉質になっています。

牛肉などの家畜生産については、輸入穀物の大量使用による窒素フットプリントや輸送にかかるカーボンフットプリント問題、糞尿による畜産環境問題などが取り上げられています。しかしこれらの問題は、家畜の「工業的な大量生産」を行うことによる過度な環境への負担が原因と考えられます。

静内研究牧場では、放牧による環境や生態系への影響について長年研究を行い、環境循環型の飼養を続けてきました。ヒトが直接食べることでできるトウモロコシや大豆といった穀物はヒトが食べ、ヒトが直接食べることでできない草をウシに食べてもらい、ヒトが食べることでできる肉や乳に変えてもらう。ウシが持つこの素晴らしい能力を、最大限に発揮させることができる飼い方を追求することが、静内研究牧場の大きなテーマの一つです。

「北大短角牛」を食べることで、畜産と環境について消費者が考えるきっかけになって欲しいと考えています。



静内研究牧場での飼養風景

### 【静内研究牧場について】

静内研究牧場は 470 ヘクタールの土地で 150 頭の肉用牛と 100 頭のウマを飼養し、粗飼料（草）主体での家畜生産システムに関する教育研究を行っています。光合成によって太陽エネルギーから有機物を作り出した植物を草食家畜が食べて成長・生産し、糞尿は放牧地あるいは堆肥として採草地や飼料畑に還元するという、牧場外部から持ち込む化学肥料や購入飼料を極力少なくした物質循環を第一に考え、ウシの健康にも配慮した持続可能な家畜生産システムを目指しています。

### 【北大短角牛販売について】

株式会社北の牧場舎・わかプランニングと連携し、一般販売を開始しました。また、学内の飲食店では北大短角牛を使ったメニューの提供を予定しています。

#### ■販売商品

- ・北大短角牛ステーキ & ハンバーグセット
- ・北大短角牛すき焼き & ローストビーフセット
- ・北大短角牛丸ごとプレミアムセット
- ・北大短角牛ハンバーグ 5 個入

#### ■商品のお買い求め・お問合せ

URL : <https://www.tankakubeef.com/>



#### お問い合わせ先

##### 【静内研究牧場・研究について】

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション 静内研究牧場

T E L 0146-46-2021 メール shizunai@fsc.hokudai.ac.jp

U R L <https://www.fsc.hokudai.ac.jp/center/shizunai/>

##### 【北大ブランドについて】

北海道大学産学・地域協働推進機構 ブランド担当

T E L 011-706-9554 メール hu-brand@mcip.hokudai.ac.jp

U R L <https://www.mcip.hokudai.ac.jp/>

#### 配信元

北海道大学総務企画部広報課（〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp